

# 芦生研究林のクワガタムシ相

芦生研究林 山中公<sup>1)</sup>

## 1. はじめに

芦生研究林はその地理的特異性から、極めて多数の動植物種が記録されている。本報告では芦生研究林および芦生地内で筆者が採集したクワガタムシ科ノコギリクワガタ属 (*Prosopocoilus*) 1種、ミヤマクワガタ (*Lucanus*) 属 1種、ネプトクワガタ属 (*Aegus*) 1種、オオクワガタ属 (*Dorcus*) 4種、オニクワガタ (*Prismognathus*) 属 1種、ルリクワガタ (*Platycerus*) 属 1種の合計 9種類を報告した。また、筆者による調査では確認できなかったものの、他の研究者が近年報告しているルリクワガタ属 (*Platycerus*) 2種、マグソクワガタ属 (*Nicagus*) 1種の合計 3種類についても記載した。

## 2. 調査地の概要

クワガタムシの採集は京都府南丹市美山町芦生に位置する京都大学フィールド科学教育研究センター芦生研究林およびその近傍の南丹市美山町芦生地区内で 2014 年から 2018 年の 5-9 月に行った。調査地は、植生区分では暖温帯と冷温帯の移行帯に位置する。また、調査地の気候は冬期に降水量の多い日本海型気候を示し、積雪は事務所構内で 1m 以上、深奥部では 2m 以上に達する。

## 3. 調査方法

林内での目視観察、事務所付近での灯火採集、長治谷でのライトトラップによる観察・採集を行った。

## 4. 今回の調査で確認したクワガタムシ

調査期間中にノコギリクワガタ属 (*Prosopocoilus*) 1種、ミヤマクワガタ属 (*Lucanus*) 1種、ネプトクワガタ属 (*Aegus*) 1種、オオクワガタ属 (*Dorcus*) 4種、オニクワガタ属 (*Prismognathus*) 1種、ルリクワガタ属 (*Platycerus*) 1種の合計 9種類のクワガタムシを採集した。以下に各種について分布傾向や採集の状況について記載した。また、標本を芦生研究林に寄贈した個体については、サンプルナンバー、性別、採集場所、採集日を記載した。種名およびその記述ルールは日本産コガネムシ上科標準図鑑(岡島秀治・荒谷邦雄 監修(2012))に拠った。

---

<sup>1)</sup>現：北海道研究林

1. ノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus* (Motschulsky, 1857)



写真 1 ノコギリクワガタのペア

[標本寄贈個体] No.208, ♀, 須後, 15. vii. 2014;  
No.220, ♂, 芦生地区内, 28. vii. 2014; No.268,  
♂, 長治谷, 19. vii. 2015

芦生では事務所周辺から奥地の上谷流域まで広い範囲で多数見られた。事務所周辺では、夜間に灯火に飛来する個体や、昼間にも竹林のタケの樹液でよく見られた。長治谷でのライトトラップにも多数の個体が飛来した。上谷流域では昼間からミズナラの樹液が染み出す場所で見られた。

2. ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus* Motschulsky, 1861



写真 2 ミヤマクワガタ♂

[標本寄贈個体] No.195, ♀, 須後, 23. vi. 2014;  
No.196, ♂, 須後, 25. vi. 2014; No.228, ♂, 須  
後, 4. viii. 2014; No.229, ♂, 須後, 4. viii. 2014

芦生では事務所周辺から奥地の上谷流域まで多く見られる。事務所周辺では、夜間に灯火に飛来する個体がよく見られる。長治谷でのライトトラップにも多数飛来した。

3. ネブトクワガタ *Aegus laevicollis* Saunders, 1854



写真 3 ネブトクワガタ♂

[標本寄贈個体] No.289, ♂, 芦生地区内,  
2. viii. 2016

芦生研究林近傍の南丹市美山町芦生地区内の山林にて発見した。本種はモミの樹液にも集まることが知られている。今回はミズナラの樹液を採餌中の個体を発見したが、芦生研究林でもまだモミの木が多く残っているため、筆者はモミの樹液で観察できる可能性は高いと考える。

4. コクワガタ *Dorcus rectus* (Motschulsky, 1857)



写真 4 コクワガタ♂

[標本寄贈個体] No.216, ♀, 須後, 23. vii. 2014;  
No.222, ♂, 須後, 30. vii. 2014

芦生では、研究林事務所周辺において最も多く見られたクワガタムシである。夜間に灯火に飛来する個体がよく見られ、昼間でもコナラやタケの樹液で見られた。長治谷でのライトトラップにも多数飛来した。

5. スジクワガタ *Dorcus striatipennis* (Motschulsky, 1861)



写真 5 スジクワガタ♂

[標本寄贈個体] No.199, ♀, 須後, 1. vii. 2014;  
No.200, ♂, 須後, 1. vii. 2014; No.297, ♂, 須後, 13. ix. 2016

芦生では事務所周辺から見られ、昼間からコナラやタケの樹液で見られた。夜間に灯火に飛来する個体もいたが、他種と比べると、灯火に飛来した個体は少なかった。奥地の上谷流域では、昼間のミズナラ樹液における観察で最も多く見られた。

6. アカアシクワガタ *Dorcus rubrofemoratus* (Vollenhoven, 1865)



写真 6 アカアシクワガタ♂

[標本寄贈個体] No.218, ♂, 榊上谷, 24. vii. 2014; No.221, ♂, 須後, 29. vii. 2014;  
No.232, ♀, 芦生地内, 17. viii. 2014

事務所周辺から普通に見られ、夜間に灯火に飛来する個体がよく見られた。上谷流域では昼間からミズナラの樹液で見られ、スジクワガタに次いで容易に観察できた。長治谷でのライトトラップ調査において、クワガタムシ科の中では最も多くの個体が飛来した。

7. ヒメオオクワガタ *Dorcus montivagus* (Lewis, 1883)



写真 7 ヒメオオクワガタ♀

[標本寄贈個体] No.276, ♀, 上谷, 28. viii. 2015

京都府 RDB 京都府カテゴリーでは絶滅寸前種。京都府内では、芦生の他、綾部市頭巾山で記録されている(京都府 RDB2015)。芦生では標高 600m 前後から生息しているが、北海道・東北地方を除いて、普通、生息地は標高 800~1000m 以上の山地に限られており、このような低標高での生息地は他に例を見ない(京都府 RDB2015)。さらに、芦生研究林の収蔵標本にある 1980 年代に採集された個体は、標高約 350m にある事務所付近で採集されている。

著名な多産地では、日中、川沿いのヤナギの樹上で枝の皮を自分で傷つけて吸汁する様子が比較的容易に観察されるというが、現在の芦生研究林には川沿いにヤナギの群落が存在しないため、そうした様子を観察することは難しい。おそらくはヤナギ以外の樹木で吸汁していると考えられる。本調査期間中、上谷流域で林内を歩行する個体を一度だけ観察できた。

芦生研究林を含む京都府内の分布地は、近隣府県の生息地から隔離された飛地的な分布地(京都府 RDB2015)であり、生息条件の限界にある(京都府 RDB2015)ため、温暖化によって環境が変化すれば、それは即座に当地における本種の絶滅につながると考えられる。

8. オニクワガタ *Prismognathus angularis* Waterhouse, 1874



写真 8 オニクワガタ♂

[標本寄贈個体] No.275, ♂, 芦生研究林南側尾根付近, 19. viii. 2015

京都府 RDB 京都府カテゴリーでは絶滅危惧種。主に標高 1000m 以上のブナ林に生息する(日本産コガネムシ上科標準図鑑)とされ、京都府内では芦生でのみ分布が確認されている(京都府 RDB2015)。林内の倒木上などで歩行する個体がまれに見られた。

芦生研究林内の個体群は近隣府県の生息地から隔離された飛地的な分布地であり、生息条件の限界にある(京都府 RDB2015)ため、温暖化によって環境が変化すれば、それは即座に当地における本種の絶滅につながると考えられる。

9. ルリクワガタ *Platycerus delicatulus* Lewis, 1883



写真 9 ルリクワガタ♂

[標本寄贈個体] No.299, ♂, キエ谷, 11. v. 2017; No.300, ♂, モンドリ谷, 6. vi. 2017  
京都府 RDB 京都府カテゴリーでは絶滅危惧種。一般に標高 1000m 以上のブナ林に生息する(日本産コガネムシ上科標準図鑑)とされ、京都府内では芦生でのみ分布が確認されている(京都府 RDB2015)。5~6月に上谷流域で林内を飛翔する個体が見られた。また、特徴的な産卵痕(括弧の間に丸い穴があいた形:(・))を朽ち木に残すため、高標高域の朽ち木を観察すると、比較的容易に産卵痕を発見できた。

芦生研究林内の個体群は近隣府県の生息地から隔離された飛地的な分布地であり、生息条件の限界にある(京都府 RDB2015)ため、温暖化によって環境が変化すれば、それは即座に当地における本種の絶滅につながると考えられる。

5. 今回の調査では確認できなかった種

前項の9種以外に、芦生研究林および隣接する地域においてルリクワガタ属(*Platycerus*) 2種、マグソクワガタ属(*Nicagus*) 1種の合計3種類の生息がこれまでに確認されている。

1. トウカイコルリクワガタ *Platycerus takakuwai* Fujita, 1987

京都府 RDB 京都府カテゴリーでは要注目種。芦生研究林近傍では、南丹市佐々里峠付近(久保田ら 2010)、京都府・福井県・滋賀県境の三国峠付近で(久保田ら 2012)記録されている。

2. ニシコルリクワガタ *Platycerus viridicuprus* K. Kubota, N. Kubota & Ootobe, 2008

南丹市五波峠付近(久保田ら 2010)、京都府・滋賀県境付近で(久保田ら 2012)記録されている。

3. マグソクワガタ *Nicagus japonicus* Nagel, 1928

京都府 RDB 京都府カテゴリーでは絶滅寸前種。京都府内では芦生と左京区花脊の大悲山でのみ記録されており、大悲山では1例のみ(京都府 RDB2015)。芦生では由良川河川敷に生息する(京都府 RDB2015)。

引用文献

京都府 RDB2015, [www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb](http://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb) (2019年3月19日確認)

岡島秀治・荒谷邦雄 監修(2012)日本産コガネムシ上科標準図鑑、学研教育出版社. 444pp, 東京.

久保田耕平・久保田典子(2010)京都府北部におけるコルリクワガタ種群 *the acuticollis species group* (コウチュウ目, クワガタムシ科, ルリクワガタ属 *genus Platycerus*) の分布. 日本生物地理学会会報 65: 159-161.

久保田耕平・久保田典子・永幡嘉之・乙部宏(2012)近畿地方北部におけるトウカイコルリクワガタ近畿亜種とニシコルリクワガタ基亜種(コウチュウ目, クワガタムシ科)の分布. 日本生物地理学会会報 67: 117-120.